

## 指定管理者制度導入施設の管理運営検証結果【検証シート】

		管理No.	
施設の名称	山形県産業科学館	指定管理者	山形県産業科学館共同管理者
所在地	山形市城南町1-1-1 霞城セントラル内	県担当課	山形県産業労働部 産業技術イノベーション課
指定期間	令和6年4月1日～令和9年3月31日	(電話番号)	(023-630-2368)
検証期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日		
検証項目	指定管理者による自己検証	県(施設所管課)による評価・検証	
<b>1 仕様書等に沿った管理・運営業務の履行状況</b>			
① 管理・運営業務の履行状況	①コロナ対策により制限していた活動を前に戻し、来館者数をコロナ前に戻すことに努力してきました。結果は、来館者数214,815人で、コロナ禍前の平成30年度と比較すると95.1%ではありますが、コロナ前は年約1万人の減少傾向にあったことを考えれば評価できる数字ではないかと考えています。 ②イベント等の実施状況は、実施日数121日となり、包括協定で定められている年間開館日数の3分の1以上の日数を達成することができました。 ③月1回定期的に、県、産業科学館、指定管理者の情報交換会を開催し、管理・運営のための情報共有に努めました。	評価	A <<評価の理由>> ・仕様書及び事業計画に沿った適切な管理運営が行われている。 ・コロナ禍後も自主的な感染症対策を継続して来館者や職員の安全を確保しながらも、イベント等を積極的に開催し、昨年度を上回る来館者数を達成した。
② 管理・運営上の課題、問題点(改善すべきこと)	①引き続き、来館者数をコロナ禍前に戻していきたいと考えています。少子高齢化の中で、今後は子ども向けばかりではなく、世代を超えて学べるワークショップやイベントも企画し、来館者の増加につなげたいと考えています。 ②コロナ禍や働き方改革により、企業の協賛事業が伸び悩んでいますので、関係団体・企業等へ積極的に呼びかけていきます。 ③コロナ禍をきっかけにボランティア登録を取り下げの方が増え登録者が少なくなっていますので、今後、新規登録者の募集を行っていきます。	<<課題等の原因分析>> ・メインターゲットとなる子供の人数が減少している中で、競合となる新たな児童遊戯施設等が各市町村で整備されている。 ・経年劣化等により産業科学館自体の訴求力が弱まることで、魅力的なイベントを開催するための企業や関係団体からの協力が得られにくくなっている。 ・ボランティアの高齢化もあり、人材確保が難しくなっている。	
課題、問題点への今後の対応	・引き続き来館者や職員の安全を第一に考えた上で、従来どおりではない新しいイベントや展示等を検討し、来館者数が増えるよう取り組んでいく必要がある。 ・ボランティアの新規登録の募集及び研修を行い、来館者に対し常時適切に館内を案内できる体制を作る必要がある。		
<b>2 利用者からの要望等への対応</b>			
① 意見・要望等及びその対応状況	来館者アンケートによると、 ①職員の対応と展示物等の清潔感、どちらも「良い、はい」と「ふつう」を合わせると100%で、良い評価をいただけたと考えています。引き続き、職員の研修に努め、良い状態を維持していきたいと考えています。 ②充実を希望する展示分野は、宇宙が一番多く、ロボット、災害(津波・火山)と続いています。その展示は少ないのが現状です。引き続き、企画展示や関連団体等との連携したイベント等を通して充実を図っていききたいと考えています。	評価	A <<評価の理由>> ・来館者にアンケートを実施し、利用者の意見・要望等の把握に努めており、肯定的な評価を得ている。 ・アンケートで要望が多かった「宇宙」分野の展示物を独自に調達するなど、要望を把握するだけに留まらず施設の魅力向上にも積極的に取り組んだ。
意見・要望等への今後の対応	今後も来館者へのアンケートを基に、ニーズを的確に把握し、モノづくり企業や関係団体との連携を図りながら、サービスの向上に努めていく必要がある。		
<b>3 指定管理者制度活用の効果</b>			
① サービスの向上	①来館者アンケートによると、「職員の対応」と「展示物等の清潔感」は、どちらも「良い、はい」と「ふつう」を合わせると100%で、良い評価をいただけたと考えています。 ②イベントにおいては、コロナ禍や企業の働き方改革により協賛事業が伸び悩む中、企画展示や県内教育機関と連携したイベント等の実施に勤めました。特に、県内の高等学校と連携が強まったことは、今後に期待できることと考えています。	評価	A <<評価の理由>> 県内の高等学校と独自に連携して展示物を整備するなど、これまでにない方法で施設の魅力向上に取り組んでいる。
② 経費の節減	環境省が策定したガイドラインに基づく環境マネジメントシステムであるエコアクション21に取り組んでおり、平成30年度を基準に令和6年度までに、電気使用量を13.4%、水使用量を9.6%、コピー用紙使用量を36.6%削減しています。	評価	A <<評価の理由>> エネルギー需要の大きい箇所を的確に把握し、適切な設備更新を行う等、経費の削減に努めている。
③ その他(地域の活性化、雇用の確保等)	①来館者数を、おおむねコロナ禍前に戻すことができ、それが地域の活性化にも繋がったものと考えています。 ②コロナ禍をきっかけに登録を取り下げるボランティアが増えたので、今後、新規登録を呼びかけ、ボランティア活動を活性化していきます。 ③コロナ禍や働き方改革により、協賛事業が伸び悩んでいますので、関係団体・企業等へ積極的に呼びかけていきます。	評価	B <<評価の理由>> 県内の様々な機関と連携している他、他県の旅行会社に周知を行うなど、様々な方法で地域の活性化に努めている。
総合的な評価	・包括協定書、年度協定書に沿った管理運営業務を行い、利用者のニーズに応じた展示やイベントを開催することで、産業科学館の魅力向上や利用促進に貢献している。 ・施設の老朽化が進み、維持管理の負担が大きくなってきている中、設置者である県と協力し、適切な管理や設備更新に努めている。		

## 【評価指標】

- A : 仕様書等に定める水準を上回っている等、優れた対応がなされている。  
 B : 概ね適正に実施されている。  
 C : 部分的に改善等を要するところがあるが、既に対応済み又は対応見込みである。  
 D : 仕様書等に定める水準に達しておらず、大いに改善を行う必要がある。

注) 検証項目については、施設の特性等に応じて適宜追加することができるものであること。